

県外

阿波おどり

一般社団法人阿波おどり舞踊協会
徳島県



秋田竿燈まつり

秋田市市民会
秋田県



秋田竿燈まつりは、真夏の病魔や邪気を払うお祭りとして始まったと伝えられ、三世紀も前の受け継がれてきました。米俵型の提灯を下げた竿燈には五穀豊饒の祈りが込められており、たわも実った稲穂のように大きくなった竿燈は、高さ12m、重さ50kgにもなります。力四分、技六分とされる絶妙なバランスで、手のひら、顔、肩へと竿燈を乗せる妙技は迫力満点。差し手と振り手が動き上げれば自慢の技を披露し、会場は熱気と歓喜に包まれます。提灯の一つ一つに灯がともされ、光の稲穂となった竿燈が会場を埋め尽くすと、まるで天の川が降り注いだかのような光景が広がり、秋田の短い夏を鮮やかに彩ります。

仙台すずめ踊り

宮城県
仙台市



仙台すずめ踊りは、慶長8年(1603年)、新築移転の儀式、仙台城移築式(わたまし)の後の寛文で、奥州・里(現在の大阪府堺市)から移り住んだ石工連が伊達政宗公の前で披露した踊りにじまると言われています。小坂城よりラング、運動祭あるふり身取り、道々踊る姿が舞をつづむる姿に似ていると、伊達家の家紋「竹」に似ていると「すずめ踊り」と呼ばれるようになりました。伝承者不足による存続の危機があったものの、現在はその危機を乗り越え、普及啓発に力を注ぎともに、仙台を代表する伝統芸能の一つとして、全国さらには海外へと活躍の幅が広がっています。

筑波山ガマの油売り口上

筑波山ガマ口上研究会
茨城県



筑波山ガマの油売り口上は大道具を代表する伝統芸能で全国的に知られています。現在つくばは伝統無形民俗文化財として認定されています。保存会会員数は全国85名で、「ガマの油売り口上」の伝承と保存を目的に活動しています。活動は地元つくば市はもとより、茨城県のほか、東京郡のイベントにも呼ばれて公演しています。ホームグラウンドは筑波山神社の境内で土曜日曜祝日会員の有志がガマ口上を望山客・ハイカー・参拝客のお立ち合いに披露しています。

奄美の島唄

奄美市
鹿児島県



奄美の先祖が残した偉大な文化である、島唄、八月踊り、六調(ろくちょう)の伝統芸能があります。島唄では、朝花(あはな)が桜や雲あそびの姿で最初に現れる挨拶で、度々めめると言われるのです。八月踊りは男児による集団の掛け合いで五穀豊饒を感謝し、老い若きも輪になって踊ります。六調は六つの調で成り立ち、くちくちと言います。総味津(じやみせん)、太鼓、歌、踊り、囃子、ハバ(節)など多彩なリズムによって自由を表現する踊りです。現在の会は、島内で行われている島唄大会や島唄教室の活動を通して次世代に伝えていきます。

よさこい祭り

ほかに中
国地方



ほにやは、1991年に高知で誕生したよさこいチームです。「踊る人を見る人が一緒に踊るよさこい」というコンセプトで、お祭りのキャッチボールを大切にしています。よさこい祭りには、お祭りの醍醐味を、元気にしたいという思いが込められています。ほにやはその伝統と精神を受け継ぎ、毎年お祭りの音楽・衣装・人装を手掛けています。子どもから大人まで幅広い世代が参加し、150人の踊り手・歌い手・鼓手とては、よさこいの魅力と未来を担います。全国にファンを持つ実力チームです。高知よりこれ限りでは、昨年、結成2年連続で最優秀「よさこい大賞」を受賞し、歴代最多となる連覇11回の栄誉を誇るよさこいの高知高知を代表するチームです。

盛岡さんさ踊り

ミスさんさとさんさ太鼓連
岩手県



さんさ踊りは藩政時代から受け継がれた踊りで、その起源は三ツ石伝説に由来しています。その昔、南部盛岡城下に黒刺(らせつ)という鬼が跋扈し、悪さをして辱めておりました。困り果てた里人たちは、三ツ石神社の神様に鬼の退治をお願いしました。その願いを聞き入れた神様は悪鬼をたらえ、二重と重たをしないと言いつつ、境内の大きな三つの巨石に鬼の手柄を押させました。(若)に手形「これが」若手」の名の由来だとも言われています。鬼の退治を喜んで里人たちが、三ツ石のまわりを「さんさんさん」と踊ったのが「さんさん踊り」の始まりと言われています。

門戸竜二 舞踊ショー

大阪府岸和田市出身。兄弟5人を残し両親が不明になり幼少期を豊後(岸和田市)で過ごす。劇団龍(ロウ)の座長を勤め独立、現在事務所主主に梅沢喜美恵朗(大阪府岸和田市)で芝居・舞踊(坂東三郎)などへの公演が年数回あり、その他金沢公演や地元でのイベントなどに積極的に参加し地域の皆さんの笑顔にも力を入れています。千歳テレビ1200「お昼の怪獣TV」にレギュラー出演中!

創作エイサー・琉球ポプス

創作舞踊SUZAKI with
琉球ポプスユニットのKUNIA-
琉球県



エイサーは、先を供養するための踊りとして田舎の間に伝承踊りとして残されています。今でも沖縄では伝統的な踊りとなっており各地で伝統エイサーが盛んです。特に、今では伝統エイサーの創作エイサーが盛んです。創作舞踊SUZAKIは2019年に結成し、今年で第10回を迎えます。女性が多い団体ではありますが、男性に負けたくないという強い決意をおこせました。また、沖縄古来の歌にも力を入れています。琉球ポプスユニットのKUNIA-は、誰もが知っている沖縄の音楽をアレンジでお届けしています。沖縄の音楽だけでなく、日本の音楽も三拍子を変えてアレンジし、聴き心地よく演出します。琉球舞踊は創作エイサー出身、通じる音楽と心も通じる三拍子をお楽しみください。今回は2団体にそれぞれスカルポゴで公演が予定されています。

山鹿灯籠踊り

山鹿灯籠踊り保存会
熊本県



和紙と糊だけで作られ、室町時代から伝わる国指定の伝統的工芸品「山鹿灯籠」を糊に糊け、灯をともし華やかで美しい踊りを披露する「山鹿灯籠踊り」は、九州・熊本県を代表する芸能として広く知られています。毎年8月15~16日には、全国でも代表的な火祭り「千人灯籠踊り」では、幻想的な灯りの舞いが、観客の目を引いています。この灯籠踊りを保存、継承している団体「山鹿灯籠踊り保存会」で、設立は昭和32年、現在約45名の会員で活動しています。

石見神楽

石見神楽東京市中
島根県



日本神楽に題材に、独特の哀愁あふれる音の響き、気遣いのある太鼓神子に合わせ、金糸銀糸を纏ひ込んだ華やかな装束と良舞臺の身を身につけて舞う石見神楽は、島根県西部の石見(いわみ)地方に古くから伝わる伝統芸能です。よき時代の歴史として、戦時中戦後の復興と密着して舞われてきましたが、現在は年々舞を通じて石見各地でも見聞される機会が多くなっています。その舞は、舞の音楽の中で神楽をおおえする「儀式舞」や古事記や日本書紀に題材にした「神楽」などの中で約30種類にわかれ、受け継ぐ団体は現在130を数えるといわれています。石見神楽東京市中は2011年、首都圏在住の石見神楽愛好者(出身者)を中心に組織、幅広い世代のメンバーと、土曜土曜「石見神楽」の会合に定期的に集まっています。年数回通じての奉納・上演をはじめ、神楽ワークショップの企画・実施など、多様な活動をを通して石見に結びつく伝統文化の魅力を発信しています。

台湾伝統芸能

教育舞踊団
台湾 桃園市



(桃園から世界へ、舞踊でつながる未来)
桃園・桃園に拠点を置く教育舞踊団は長年にわたる地域に根ざした芸術文化の発展に尽力しており、16年連続で桃園市の優秀芸術団体に選出されています。当団は優れた舞踊家・芸術人材の育成に力を使い、これまでに著名なアーティストやダンスアーティストをはじめ、様々な分野で活躍する多くの人材を輩出してきました。また、次世代アーティストの創作活動と実践を継続的に支援し、新たな芸術表現の可能性を広げています。さらに、桃園市を代表して姉妹都市への訪問や国際交流事業にも積極的に参加し、文化外交を通じて国際的な友好関係を築くことに貢献しています。

